

小名浜三小 学校だより  
No.15  
平成29年12月7日

校長 岡 亮

# くすのき

## きっかけづくりの大切さ 2

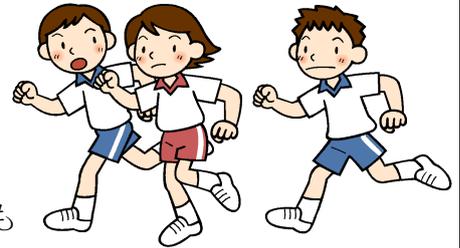
すっかり寒くなりました。2学期もあとわずかです。

13号で、「夢」を持ったり、チャレンジし続けたりするためには、何かきっかけも必要だということを書きました。

10・11月には、学習発表会や持久走記録会という、子どもたちの心と体を成長させる、大きなきっかけになる行事がありました。

学習発表会には「励まし合い、認め合い、学校の一員としての自覚を高める」「一人一人の個性を伸ばし、創造性の向上や学校生活の充実を図る」という目標があり、先生方は、その達成に向けて、学年によっては子どもたちと共に内容を考えて取り組みました。

お子さんによっては、大勢の前で一人で大きな声で話すきっかけになったと思いますし、得意でないことを克服するきっかけになったと思います。また、心を一つに合わせることの大事さや楽しさ、難しさを感じるきっかけになったことでしょう。



6年生のフィナーレ

持久走記録会は「大会」ではありません。でも、目標として「1位になる」「〇〇さんに勝ちたい」ということもあるでしょうし、それに向けて頑張る過程も大切と考え、“入賞”を設けています。

多くの子にとって、長い距離を走ることは楽しいものではないでしょう。どちらかと言えば、イヤなことだと思います。それでも、朝から校庭を何周も走ったり、体育の時間や記録会でも最後まで走り切ったりと、子どもたちは頑張ります。

おそらく、子どもたちの中に乗り越えたい山とか壁があるのでしょね。練習も当日も力一杯頑張り、自分なりの結果を得られた子は、まちがいなく過去の自分とは違います。だから褒めたくなくなっちゃいます。

ところで、こういった行事に向けて練習している最中の家族の会話はどうですか？ 子どもなりに悩んだり、決意表明したりしますよね。“やる気スイッチ”を入れるべく励ましてくださったからこそ、今回のような素晴らしい学習発表会・持久走記録会になりました。ありがとうございました。昨年もよかったですが、今年の感動はそれ以上です！

ちなみに、国の定める「小学校学習指導要領」には、持久走の距離については触れられておらず、例えば、低学年は「無理のない速さでのかけ足を2～3分程度続けること（中学年は3～4分、高学年は5～6分）」と例示されています。しかしながら、一定時間に走った距離を正確に記録することは難しいため、本校では、低中高のそれぞれ3、4、6分で走る平均的な距離を決め、今回から適用しました。また、走りやすさ、練習のしやすさ、子どもたちの様子の把握、会場の準備などの観点から校庭での実施に戻しました。

## ヤングアメリカンズはどうでしたか？

5・6年生対象でしたが、11月16日のヤングアメリカンズ(YA)のワークショップ(WS)とショーは、とても大きなきっかけになったことと思います。どういものなのか、どんな効果があるのかを言葉では説明しづらい。でも見たら分かる。それがYAです。たくさんの方に見ていただいたので、ここで多くを語らなくてもお分かりいただけたと思います。

子どもたちの感想をいくつか紹介します。＜何事にも**プラス思考**でいけば、**必ずうまくいく**ということを教えてもらった＞＜YAは**勇気と希望**を与えてくれた＞＜YAは私たちに**自信**をくれた＞＜ぼくは“**知らない自分**”に**気づく**ことができた＞＜思いっきりやっているとときに「**小さな悩みなんてどうでもいい**」と思った＞＜ひとりじゃない、“**みんな**”っていいなあと思った＞＜英語の歌をもっと知って、**歌ってみたい**と思った＞＜もっと積極的にやれば、と後悔している＞＜もっと**英語の勉強**をしたくなった＞＜YAになりたい＞

実はWSの前に、校長はYAの前で話をさせられるのです。概略こんな話をしました。

「**夢に向かってチャレンジし続ける心**」を掲げて学校経営に当たっている。今日のYAのテーマは“**Cha, Cha, Cha!**”だ。最初の“Cha”は“**Change**”。子どもたちは、自分理解や他者理解が不十分なところがあるので、少し変わってほしい。次の“Cha”は“**Challenge**”。変わるためには**挑戦**しなければならない。英語や歌やダンスは難しいと思っているかも知れないけど、**挑戦**させてほしい。だから今日のYAは、変わるため、**挑戦の“Chance”**だ。

すると、YAはディレクターのフィグを中心にミーティングを始め、“**Cha, Cha, Cha!**”の思いを再確認してから子どもたちを迎えてくれたのです。涙が出るほど嬉しかったです。

私が、単に楽しいから、元気が出るから、ましてや思い出になるからという理由でYAを呼んだのではないことが、お分かりいただけたのではないかと思います。そして、子どもたちの感想からも、それが理解していただけたと思います。



Young Americans(YA、ヤングアメリカンズ)

1962年に設立された非営利の音楽・教育団体。音楽やダンスを通じて人間のありのままの素晴らしさを伝えることを目的に、公演と教育活動をしており、17～25歳の約300名で構成されている。アメリカだけでなく他の国の若者、日本人も所属しており、来校したのは厳しいオーディションを勝ち抜いた、人間性豊かな、音楽と子どもたちを心から愛する若者たち。NPO「じぶん未来クラブ」が、平成23年6月に東日本大震災支援のため立ち上げたのが「YA東北プロジェクト」で、本校訪問もその一環である。道路事情のよくない中、昨年度からのラブコールに応え、来てくださった。

## 6年生は芸術家派遣事業があります

19～21日の3日間、6年生を対象に演劇ワークショップをお願いしています。演出家や劇団員で構成されているNPOに来ていただきます。クラスの特徴に合わせてWSのメニューを選ぶことにしているので、クラス毎に内容は変わるかも知れませんが、基本的に、子どもたちにコミュニケーションの面白さや難しさ、大切さを学ぶ体験をさせます。

## バザーご協力ありがとうございました！

9月30日の親子バザーの報告です。ご協力に感謝です！

売上総額 509,400円

経費総額 246,811円

利益総額 262,589円

学校としては、陸上競技大会のユニフォーム(上)の購入ができればと思っています。